

岩手県自殺予防情報センター ニュースレター

写真提供:岩手医科大学 大塚先生

第 40 号 平成 22 年 7 月 6 日発行

発行:岩手県精神保健福祉センター 岩手県自殺予防情報センター (担当:大澤)

このニュースレターは自殺対策に関わる担当者、関係者の方々に配信しています。皆様からの情報やご意見をお待ちしております。また、配信先を募集しております。関係者や機関の方々のご紹介をお願いいたします。

NEWS 「地域における自殺の基礎資料」が公表されました

内閣府では、警察庁から提供を受けた自殺統計データに基づき、「月別の地域における自殺の基礎資料(平成 22 年 5 月)」を取りまとめました。これまでの警察統計と違い、「発見地」及び「住居地」の 2 通りで自殺者数を集計しています。

	平成 21 年 5 月		平成 22 年 5 月		自殺者数対前年同月比	
	自殺者数(人)	自殺率	自殺者数(人)	自殺率	増減数(人)	増減率(%)
全国	3,003	2.4	2,704	2.1	△299	△10.0
岩手	41	3.1	35	2.6	△6	△14.6

※自殺者数は発見地のデータ

5 月は本県では 35 人が亡くなっています。

NEWS 地域における自殺対策プログラム「久慈モデル」の取組み

自殺予防の方略には、コミュニティモデル、メディカルモデルなどの基本的な考え方が知られています。岩手県久慈医療圏では、岩手医科大学が中心的役割を果たしながら、平成 14 年～16 年は、「自殺多発地域における中高年の自殺予防を目的とした地域と医療機関の連携による大規模介入研究(厚生労働省科学研究費補助金こころの健康科学研究事業)」が、17 年～21 年には「自殺対策の為の戦略研究」による取組みがなされてきました。「地域における自殺対策プログラム(久慈モデル)」は、後者の活動をもとにまとめられました。5つの骨子(こころの健康づくりネットワーク、一次予防、二次予防、三次予防、職域へのアプローチ)からなる複合的なプログラムです。

岩手県精神保健福祉センターでは、技術支援機関の立場から、多くの市町村、保健所の皆さんに自殺対策に取り組む上でこのプログラムを選択していただくことを提案しています。その理由には、まず、13～17 年に1・2次等の複合介入を実施した秋田4市町村において 27%の自殺死亡率の減少が見られていること、実際に自殺集積性が高かった久慈医療圏の近年の効果をもみても、取組みを否定するものではないこと。次に、久慈の手法の特長は、住民や地域関係機関のネットワークを核として、そこから予防活動を展開させるために、医療資源が不足しメディカルモデルによる取組みだけでは限界がある地域の現状にも即しているからです。さらに、プログラムの作成には地元岩手医科大学が深く関与してきた為に、ノウハウを持つ人材があり、実行を可能にするために必要な助言を受けやすい等のメリットがあります。最近では、県外でもこのプログラムを学ぶ数多くの研修会が開催されています。こうした具体的なノウハウが地元にある自治体は多いわけではありません。新潟県の例では、地元「松之山モデル」の県を挙げての展開の試みがあります。自殺対策の取組み方は各地域の選択になりますが、久慈モデルに限らず、保健活動を実施する場合は、サポートする地元医師などの資源の実情を踏まえて、地域住民と双方がプラスになるプログラムの選択が親切です。

当センターでは定期的に久慈モデルを学ぶワークショップを開催しています。22 年6月現在、岩手県内では全 34 市町村中17か所が参加しています。協議会などのフォーマルなネットワークづくりや単発の講演会などの一次予防活動は、取りかかりやすさから多くの地域で実施されているようです。課題は、予防活動の展開の要と肝になる実務者によるセミフォーマルなネットワークがない場合が多く、実務担当者の発案による取組みに限定され、個人の負担が大きい割に継続可能性の確保や展開が不十分な点です。さらに、研究レベルでは、予算や人的面などが検討事項として指摘されています。

現状で、さらに多くの領域におけるスクリーニングや危機介入相談などの自殺対策活動を推進するためには、より多くの皆様の工夫や御協力が必要です。

内閣府 HP_自殺対策ページに以下の資料が掲載されています

警察庁提供データを基にした資料はこちら

月別の地域における自殺の基礎資料(平成 22 年 5 月)

<http://www8.cao.go.jp/jisatsutai/saku/toukei/tsukibetsu-h2205.html>

厚生労働省の人口動態統計

月報を基にした資料はこちら

月別自殺者数の推移

<http://www8.cao.go.jp/jisatsutai/saku/everymonth/index.html>

※

一次予防:健康教育等の健康増進活動

二次予防:スクリーニング等の早期発見、治療活動

三次予防:リハビリテーションや遺族支援等の活動



うつ病健康教育会場にて

ワークショップの問い合わせ:
岩手県精神保健福祉センター
019-629-9618(担当:太田)

資料紹介 「地域における自殺対策プログラム」

編集：厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業
「自殺対策のための戦略研究」地域介入研究班

本書は、NEWSで取り上げたプログラムのテキストになります。当センターのワークショップでも使用しており、全4巻とDVD2枚は、「本文」「視覚教材テキスト」「先行的取り組み地域の事例」「久慈モデルによる自殺対策マニュアル」で構成されています。執筆には岩手医科大学神経精神科学講座が参加されており、今回、地域活動のためにと同講座から本書を多数ご提供いただきました。取り組みをご検討の際には差し上げますので、当センターにお問い合わせください。



フィールドレポート 自殺対策に関わる民間団体の活動紹介No.6

◎釜石地区傾聴ボランティア「はなみずき」

この会は、釜石保健所が開催した傾聴ボランティア講座の修了生により、平成20年10月に設立され、活動を開始しました。現在34名の会員が、のぞみ病院(釜石市保健福祉センター)8階に開設された傾聴ルームで電話・面接相談を行っています(毎週金曜日:13:00~15:30、0193-22-0222)。一人でも多くの方が自らの問題を解決し、生きる希望が持てるように活動しています。今後は、集会所や施設等に出向いての傾聴活動を検討しています。

連絡先:

釜石保健所 0193-25-2702

インフォメーション

★自殺予防2010ボランティア・民間団体等活動交流会の展示を募集します

下記日程で開催予定の交流会において、パネル・ポスターなどによるボランティア団体等の活動紹介を展示発表します。団体様からの展示のお申込みをお待ちしております。

日時:平成22年9月24日(金) 10:30~16:30(受付10:00~)

会場:プラザおでつ(交流会:おでつホール 展示発表:大会議室)

(盛岡市中ノ橋通1-1-10)

問合せ・申し込み先:

岩手県精神保健福祉センター
019-629-9618(担当:太田)

★「思春期精神保健相談研修」を開催します

◆第1回

日時:平成22年7月21日(水) 13:30~17:00(受付13:00~)

会場:アイーナ(いわて県民情報交流センター)501会議室(盛岡市盛岡駅西通1-7-1)

対象:思春期青年期の精神保健に関わる保健・福祉・教育関係者等

内容:・講義「児童生徒の育ちをともに支えるために」~保護者とともに、地域とともに~

[講師] 仙台市精神保健福祉総合センター所長 林みづ穂先生

・演習...シナリオロールプレイ及び受講者によるロールプレイ

[講師] 岩手県精神保健福祉センター職員

[助言者] 仙台市精神保健福祉総合センター所長 林みづ穂先生

◆第2回(県教委と共催)

日時:平成22年8月10日(火) 13:00~15:00(受付12:30~)

会場:岩手県庁12階講堂(盛岡市内丸10-1)

対象:思春期青年期の精神保健に関わる保健・福祉・教育関係者等

内容:・講演「加害生徒の精神面の理解と対応のポイント」(仮題)

~地域と連携しながら子どもをどう支えるか~

[講師] 和歌山県精神保健福祉センター所長 小野善郎先生

問合せ先:

岩手県精神保健福祉センター
019-629-9618(担当:佐々木)

★PIPCセミナーいわて「ベーシックコース」開催

日時:平成22年7月31日(土)17:00~18:00 プレセミナー

8月1日(日)9:00~16:00 PIPCセミナー・ベーシックコース

会場:休暇村 陸中宮古(宮古市崎嶮ヶ崎18-25-3)

対象:心療に関心を持つ医師

参加費:3,000円(昼食代等を含む)

参加申し込み:参加申込書に必要事項を記載し、FAX等で送信のこと

内科医・プライマリケア医等が自分の専門領域において適切に精神科的アプローチを用いることができるようになるための知識やスキル等の習得を支援します。



スクリーニングの研修にて

※PIPC:

Psychiatry in Primary Care

問合せ先:

宮古保健所 保健課
0193-64-2218(内線235)